

- A. 【日 時】 2011年11月8日 木曜日(17:30~19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 松原斎樹(主査)、榎究(幹事)、辻村壮平(幹事)、大石洋之、大野隆造、
長野和雄、西名大作、宗方淳
順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2011年度 第3回環境心理生理運営委員会議事録(案)
2011年度 第3回環境工学本委員会資料の抜粋
2012年度 委員会活動計画案・調査研究委員会主催催し物企画書
2010年度 各委員会決算報告書
2012年度 環境工学委員会組織図(案)
2012年度 建築学会大会 OS 検討資料

E. 【報告事項】

1. 第3回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

前回議事録(案)の確認を行った。記載内容について修正に関する指摘・意見が特になかったため、正式な議事録として承認された。

2. 第3回環境工学本委員会の報告

- 第2回環境工学本委員会議事録を確認した。
- 学術推進委員会幹事会報告について
 - 調査研究委員会活動報告会
2009~2011年度調査研究委員会活動報告会が2012年3月21日に開催される。
 - 2012年度技術部門設計競技
環境工学本委員会に関連する委員会からの提案はなかった。
- 東日本大震災関連について
 - 東日本大震災に対する日本建築学会の第一次提言として、“建築の原点に立ち返る—暮らしの場の再生と革新— 東日本大震災に鑑みて”が2011年9月9日にとりまとめられた。さらに、第二次提言に向けての常置委員会の分担案が示された。
- 業績候補推薦について
 - 大賞候補業績
木村翔先生の名前が候補として挙がっている。
 - 文化賞業績候補
環境工学分野からは該当者なし。
- 2012年度大会(東海)について
 - 研究協議会テーマ:『エネルギーとライフスタイルのあり方(案)』 第2日目の午後
 - 研究懇談会テーマ:『東日本大震災に伴う節電環境から考えるこれからの設備計画(仮)』

- 開催期間及び会場：2012年9月12日(水)～14日(金) 名古屋大学
- 原稿の電子投稿の締め切り：2012年4月10日(火)
- プログラム編成会議の開催：4月27日(金)
- 各運営委員会のOSテーマ：環境心理生理運営委員会からの提案
「知的生産性研究の方法論と課題」

■ 2012年度活動計画案・催し物企画について

2012年度活動計画案に関して、本運営委員会及び各小委員会でとりまとめられた計画案の内容を各小委員会主査が報告した。

○ 環境心理生理運営委員会

本年度の活動成果及び2012年度の活動計画を松原主査が報告した。

○ ヒューマナイジング小委員会

本年度の活動成果及び2012年度の活動計画について、ヒューマナイジング小委員会の主査である讃井委員からの報告メールの内容を松原主査が報告した。本年度は活動が低調となっており、年度内にもう2回は委員会を開催したいと考えている。来年度については、せめてシンポジウムくらいは開催したいと考えている。

○ 感覚・知覚小委員会

感覚・知覚小委員会の主査である西名委員が本年度の活動成果及び2012年度の活動計画を報告した。本年度は第10回シンポジウムを開催した。来年度は設置期間の最終年度として、まとめのフェーズであり、環境制御の目標をテーマとした第11回シンポジウムを開催する予定である。さらに、これまでの活動を総括するシンポジウムもしくは公開研究会の開催も考えている。また、これまでの成果の刊行も目指す。

○ 環境心理小委員会

環境心理小委員会の主査である宗方委員が本年度の活動成果及び2012年度の活動計画を報告した。本年度は2011年8月に第11回環境心理生理チュートリアルを開催した(参加者は48名)。来年度は、第12回チュートリアルの開催に加え、分野横断的な展開のための交流活動も実施する予定である。また、チュートリアルやミニ研究会で作成した資料からの出版可能性の検討も行う。

■ 2012年度予算配分方針

大会梗概集の梗概を2, OSを4, 論文集・技術報告集を10, シンポジウム等参加者を1, 出版物の刊行点数を50とし、過去5年間分すべてを足し合わせた実績とする。

3. その他

■ 小委員会再設置時の名称の継続使用について

小委員会更新時の名称の継続使用が可能かどうかについては、統一見解は得られておらず、本委員会でも議論になっている。

■ 予算の執行状況

昨年度の予算の執行状況が松原主査から報告された。環境心理生理運営委員会と各小委員会で使用率は86%であった。使用率はできるだけ100%になるように使い切る方が望ましいので、小委員会ごとに融通し、年度末に調整して使用することを確認した。

■ アカデミックスタンダードの呼び名について

アカスタの名称が“AIJ-ES”に変更になった。

F. 【審議事項】

1. 今年度 OS の反省と次年度の案について

2012 年度の建築学会大会 OS のテーマについて活発な議論を行った。まず、本年度の OS を宗方委員が報告した。次に、2012 年度の OS のタイトル及び募集の文章に関して、メール会議によってひとまず決定した内容（原案通りに本委員会で承認された）を松原主査が説明した。これらを基に、2012 年度の OS について議論を行った。

- ・ 知的生産性研究の立脚点や方法論については、継続的に議論が必要である。宗方委員
- ・ OS の研究発表を集めるために、さまざまな分野の関係者に個別に声を掛けることも必要である。松原主査
- ・ OS の研究発表は選別した方がよい。宗方委員
- ・ 既往の研究を押さえ、これまでの研究の流れを把握した上で研究を行うべきである。方法論のレビューなどを OS の 1 報目にもってきてはどうか。榎委員、大野委員
- ・ 知的生産性は、環境のみではなく、それを支えるプログラムも重要である。大野委員
- ・ 設備だけに着目しては出てこない考え方もありそう 西名委員
- ・ 心理学者が考えていることも入れた、環境心理分野からの知的生産性の本を出版できるといい。（仕事の場の心理学（西村書店）がまとまったもの）宗方委員

2. 環境心理生理分野の打ち出し方

松原主査から 2012 年度環境工学委員会組織図（案）の説明があり、その後、今後の環境心理生理分野の打ち出し方に対して議論を行った。

- ・ 本分野の成果として、教育効果が重要であると考えている。その例として、環境心理チュートリアルは成功している事例である。榎委員
- ・ 本分野では研究手法に強みがあり、企業にも手法を知っている人を必要としているという実情もある。辻村
- ・ 踏み込んだニーズに対するアプローチが求められている。宗方委員
- ・ 人間環境学の改訂（人がどういう意識を持って環境に対応しているのか？ライフスタイル、環境に対する期待、人間環境系の捉え方）。松原主査
- ・ 本を作るとしたら、どんな章立てになるかを議論してもいい（環境工学の本に環境心理学が入っている本があるか？風土から入るのではなく、人から入ってくる本？）。松原主査

3. 次回の環境心理生理運営委員会の開催日程について

次回の本運営委員会の開催日を議論し、次回開催日を 2012 年 2 月 22 日(水)とした。

G. 【次回の開催日程】

2012 年 2 月 22 日(水) 11:00～13:00 予定